

一流の人は、まことに丁寧である

この世に無駄なものはない

早いもので、来月には、出発式を迎えます。何よりも、諸君と出会えたご縁に、心から感謝しなければなりません。私のような年齢になると、若いころにはあまりよく分かっていなかったと反省することがいろいろあります。その一つが、`出会いの縁`です。一億人以上の人が住む日本、出会いなどは無限にあると、若いころは思っていました。そのように思っている時は、人とのお付き合いもぞんざいになりがちでした。お世話になっても礼状一つ出さない。約束を破っても、それほど気にしない。今から考えると、顔から火が出るほど恥ずかしかかったことが一杯あります。

この出会いは、人生の`宝物`である

人と人との出会いは、私達が思っているほど、多くはないのです。まして、`同志`、即ち、志を同じくする人とのご縁などは、人生において、しばしばあるものではありません。私のような年齢になると、しみじみ実感します。

例えば職場の仲間。仕事をしている時には、それが人生のすべてでした。しかし、職場の仲間は、仕事を離れると、みごとに疎遠になります。まして、ある程度の立場に就いてからのお付き合いは、私の人柄よりも、私の地位・立場に近付いてくる人が大半なのです。その証拠に、立場を離れると、あっという間に、遠のいていきます。

そのように考えると、『夢甲斐塾』での出会いの縁は、実は人生のかけがえのない宝物です。今は、ピンとこないかもしれませんが、これから長い人生を歩くうちに、「結局、利害得失なくお互いの志を高め合おうと切磋琢磨したあの時の出会いの縁ほど、私の人生において素晴らしいものはなかった」と思う時が、きっときます。

縁を大切に作る心構えは、`ギブ・アンド・ギブ`に尽きます。私達の縁が本物であったかどうかは、出発式の後に問われます。どうぞ、この縁をお互いのために大切にしていこうではありませんか。

まず、あなたを良くするところから始まる

さて、『夢甲斐塾』において、私が諸君に求め続けてきたものは、ただ一つであります。それは、「山梨を良くする前に、自分を良くする努力です」。言葉を変えるならば、「山梨を一流の地域にするためには、まず、あなた自身がそれにふさわしい一流の人間になること」です。あなたが`人間一流`になり、山梨を良くしようと努力すれば、山梨はきっと一流の地域になっていくことでしょう。

さて、一流とは何か。

私は、松下政経塾の仕事を通じて、世に一流と言われる多くの方々とのお付き合いがありました。それは、私の人生において、大きな宝物のような経験でした。

※裏に続いています

中でも、松下政経塾在職時代の十年間、直接に仕えた松下幸之助は、間違いなく一流の人物でありました。一流の人物のそばにいることは、一流とは何かを考える上で、大変に参考になりました。

「一流とは何か?」と問われれば、答は、様々にあります。どれが正解などと決め付けることはできません。そのことを承知の上で、「一流とは何か?」と問われれば、「丁寧である」と私は答えます。あるいは、「一流には、妥協がない」とも答えます。

例えば、日常生活のすべてにおいて、「一流の人は、丁寧」です。封筒の張り方、什器備品の扱い方、人との付き合い方、すべてに「丁寧」です。乱暴で、粗雑とは、およそ縁遠いのです。

一流の人は、仕事がきれい

一流の料理人は、調理の時、材料や道具の扱いが丁寧です。材料も、決して無駄にしません。「食材に丸ごと価値がある」と考えるから、扱いが丁寧になります。調理が乱暴で、道具や食材の扱いに無駄の多い人は、やはり二流、三流の調理人と決め付けてもいいでしょう。工芸の分野でも、「人間国宝」と呼ばれるような人の仕事ぶりは、実に丁寧で、きれいです。作業場や道具の手入れも、きちんと調えられています。

「どうして一流の人は何をしても丁寧なのか」。私はずっと考えてきました。そして分かったのは、一流の人は、人や物の価値を熟知しているからだ」と気付きました。松下幸之助の言葉に、「この世に無駄なものは何一つない」とあります。その考え方に立てば、物の扱いが丁寧になるのは当然です。また、「この世に無駄な人は一人もいない」との言葉もあります。無駄な人が一人もいないと考えるから、人遣いやお付き合いが丁寧になるのは当然でしょう。

諸君と丁寧に付き合いたい

私もまた、人を導く立場にある限りは、「この世に無駄な人は一人もいない」と考えて、塾生諸君とは丁寧に付き合いすることを肝に銘じています。私が主宰する『青年塾』も『夢甲斐塾』も、入塾に当たって、選考試験はありません。なぜか、「人を選ばない」と、私が考えているからです。「この世に無駄な人がいない限り、ご縁があるすべての人を受け入れる」ことが、私の基本指針だからです。

選考試験なども考え方によっては、随分、傲慢です。「私共が気に入った人を選ばせてもらう」というわけです。松下幸之助は、「縁があって入社した人を大切にしなければならぬ」と教え続けました。まさに、私自身が、諸君と向かい合ってきた基本の姿勢であります。

「何をする時でも、丁寧であろう」とすることは、一流への道です。諸君、どうぞ、人間一流の道を歩んでください。そして何よりも、私達お互い、丁寧なお付き合いを続けることを誓い合いたいものです。

『夢甲斐塾』

塾長 上甲 晃